

ふじさき歯科 デンタルニュース

2007年 No.15



「大名の行き倒れ」

という言葉があります。どういう意味かというと、大名のお殿様を診る医師は責任が重大であり、治療の結果が悪くなった時、極端な場合は腹を切らざるをえない、というような事があったそうです。以来、大名が病気になる、どの医師も結果をこわがって尻込みし、本気で診察をする者がいなくなってしまう。その結果、殿様ともあろうお方が名医はおろか、ちやんとした看病さえも受けられず、行き倒れのように亡くなってしまいう事がある、という事をたとえた言葉です。

このたとえにはあてはまらないかもしれませんが、医療には次のような二つの事実があります。一つは「医療を行う者は患者に対し最善をつくす事にやぶさかでないが、しかしながら常に最良の結果を約束できるものではない」という事。もし医療現場に「絶対」という言葉をいれなければならなくなったら、名医でも尻込みしてしまうでしょう。「私はどんな病気でも絶対に治せる」なんて言う医者がいいたら、ちよつと信用できません。歯科医の私がこんな事言うて頼りなく思うかもしれませんが・・・。話は少しそれますが、昔、ある医大（東大だったと思います）の

高名な内科医が退官する時の記者会見で「私の誤診率は三十数パーセントでした」と発言しました。その時会場ではこれを聞いて「ウォー」という一種のどよめきがありました。あとでわかったのですが、このどよめきには二種類あったそうです。一つは記者達の「そんなに間違っていたのか」というもの。もう一つは医師達の間で「それ位しか誤診がなかったのか」という感心したどよめき。今は検査法も発達しているのもっと率は良いと思います。と、とにかく、絶対という言葉にはなかなか近よる事はできません。

それともう一つの事実。病気や怪我などを治すのは、根本的にはその人自身の体力、治そうという気持ち、というなれば「生きる力」である、ということ。医療はその生きる力を手助けし、お手伝いするに過ぎないということ。病気が治つてゆく過程、怪我の治癒してゆくメカニズムなど神秘的と思われる位にヒトの身体は良くできていると感ずることがあります。これらの治癒力に対し医療はほんのちよつとお手伝いできているだけなのです。

「医療の行き倒れ」

さて現状の、そしてこれからの日本の医療体制に目を向けてみると、なにかすぐく混乱してお寒いこと

になつてきている気がします。世界の経済大国というのに大事な医療費のさまざまな切り捨て。医療のちぐはぐな需給問題（今、一番大事と思われる産婦人科医、小児科医がどんどん少なくなっているそうです）。専門家でもその主旨がわからなくなつてきている保険医療制度のルール。等々。

日本はすばらしい国民皆保険制度の国であつたのが、その制度運用を間違え、制度に疲労を起し、血がかよわないものになりはじめているのではないのでしょうか？

歯科医療でも昨年から大変な医療費の削減、適用の規制を受け、歯科医院の閉鎖がでてきております。又入れ歯や、冠を製作する歯科技工士達もやめてしまう人が少なくなく、技工士学校の入学希望者は以前の半数以下となつてしまいました。（一人前の技工士になるには十年位かかります）。いったい十年後にはどんな歯科事情になつていくのでしょうか。

マスコミもそろそろスキャンダラスなワイドショー的な医療現場をとりあげるのではなく、真面目な医療を行っている現場の医療体制に、どんな困難が、問題があるのかなどに焦点をあててほしいと思います。いかがなものでしょうか・・・。

院長 歯学博士 藤崎真人

インプラントを入れるにあたって

インプラントって

歯科用インプラントとは人工歯根のことです。天然歯が何らかの理由で失われ、歯の修復が必要とされた場合に顎骨にインプラントを埋め込みます。その上に人工の歯を固定します。



近代インプラントは、1952年にスエーデンのブローネンマルクという医師により創始、始まりました。人体は異物が入って来ると、体外に排出しようとする働きを持っています。その為、歯の代わりに顎の骨に何かを入れても抜け落ちてしまいます。しかし、人工関節などにも使用されているチタンは人体に対して親和性が良く、骨と結合

することが発見され、インプラントが可能になりました。

人間の口の中には、上顎骨・下顎骨・舌など、複雑な器官が絶妙なバランスで機能しています。インプラントを行う際には、レントゲン検査はもちろんCT検査等でより多くの情報と診断が重要になります。そういった事で、色々なリスクを軽減する事が出来ます。

インプラントは、年齢的に骨の発育がほぼ完了する二十才前後から行うことが出来ます。年齢に上限はありません。しかし、重度の歯周病の方、骨の量や密度の十分でない方、全身疾患のある方、妊娠7カ月以降の方、ヘビースモーカーの方は制限させていただく場合があります。重度の歯周病の方は、お口の衛生状態が悪い場合が多くそのままでは感染するリスクが高くインプラントをすることはできません。歯周病を治療し正しい歯磨きを身に付けて頂いてからインプラントを行います。

インプラントは、局所麻酔をかけて行いますので手術中に痛むことはまずありません。本数が多い場合などは、術後に少し腫れることはありますが2〜3日で治ります。また、より快適に又、インプラントの寿命を延ばす為には適切なメンテナンスが不可欠です。

メンテナンスには大きく分けて2種類あります。
ーセルフメンテナンス（自分で行うメンテナンス）ー

インプラントの自己管理方法は、決して難しくありません。患者様に合った方法をお教えします。また、最近では、超音波ブラシといってブラシの届きにくい部分をきれいにする器具も開発されています。
ープロフェッショナルメンテナンスー

噛み合わせの定期検査、レントゲンによる骨の検査や冠のゆるみなどを検査します。また、同時にセルフメンテナンスの状態を確認します。

インプラントは虫歯にはなりません。細菌感染によりインプラント周囲炎を起こすことがあります。ブラッシングの指導と共に、定期

的な歯垢・歯石のクリーニングを行うことで予防できます。治療の成功を長い目で考えた場合、治療後の管理の仕方の方が重要だと言えるかもしれません。

歯科医師 中村



歯の着色について

「歯を白く見せたい」という願望は、年齢・性別・着色の程度にかかわらず多くの人が抱いているようです。

また、アンケート調査で「自分の口で満足していないことは何ですか？」という質問に1位・歯の色
2位・口の臭い
3位・歯並び
という答えがでました。

いずれの答えも、対面を気にして自分をより美しく見せたい、というエスティテックな思いが高まっている証拠ではないでしょうか。歯の汚れという点、私達は虫歯や歯周病の原因となる「プラーク（歯垢）」を真っ先に思い浮かべますが、皆様にとつては、歯に無害な着色の方がプラーク以上に「歯を醜く見せるもの」として気にしていることが多いようです。

この「歯を醜く見せる歯の着色」はどのようなにしてはじまるのでしょうか。

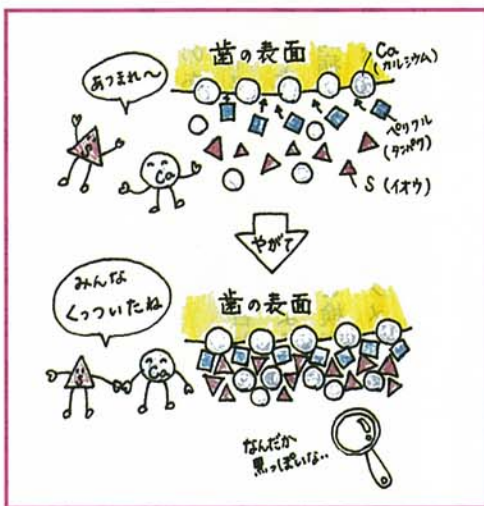
《着色物質の正体》

歯の表面に存在するカルシウムが、唾液タンパクを吸着していきます。

この唾液タンパクの上にカルシウムと硫黄が橋渡しとなって着色物質がひきよせられていくのです。

着色物質である色素はタンパクや金属イオン（特に銅イオンや銀イオンなど）が主で、これらの着色物質が、時間の経過によって変色し（褐色化反応）、何層にも重なって

塊となり（縮合反応）、目に見えて着色は濃くなっていくのです。



《着色しやすい乳歯》

乳歯と、生えたての永久歯と、時間の経過した永久歯は、3種類とも同じような歯の表面に見えますが、若い歯ほど歯の表面構造が粗いので、乳歯が一番着色物質が付着しやすく、次いで、生えたての永久歯が着色しやすいのです。

《着色しやすい飲食物や医薬品》

*ポリフェノール・硫黄成分を多く含む食品・ビタミン類

お茶に含まれるカテキンや、赤ワインに含まれるタンニンも、ポリフェノールの一つです。

ネギやニンニクには硫黄成分が多く含まれています。

ビタミンの黄色や赤色が歯の表面に付着

しやすく、着色を強くします。

色の濃い飲食物が硫黄成分と重なって見た目に歯の色が変わっていくのです。

*タバコのヤニ

ヤニと呼ばれるものは、煙りに含まれる「タール」のことで、数万種類の化学物質が幾つも重なって歯に付着していき、着色していきます。

*漢方などの経口医薬品

漢方などの経口医薬品に含まれる化学物質が、口の中の硫黄成分と反応し、硫化塩などを形成して目に見えて歯が着色してきます。

《歯科医療に使われている歯科材料への着色》

*歯に詰める白い樹脂

樹脂自体に色が見えにくい変色する・歯磨き粉などの研磨剤の粒子により、表面が粗くなり、着色物質が付着していく過去の治療時に使用された樹脂は、時間の経過につれて、着色が目立つようになってきます。

*保険治療で被せる白い前歯・入れ歯の歯

前歯に使用する金属冠に貼り合わせた白い樹脂は、樹脂に硬度や耐磨耗性を向上させるための科学物質を含ませているので、時間の経過とともに変色し、表面の粗い部分には着色物質が付着してきます。

入れ歯の人工の歯には、ウレタンという物質が存在して、このウレタンが着色物質をひきこんでいきます。

《着色の除去方法》

市販されている着色除去効果をうたった歯磨き粉には、カルシウムや硫黄のつなぎを切る効果や、鉄と銅と結びついた着色を浮き上がらせる効果のある化学物質が添加

されています。しかし、市販されている歯磨き粉には飲み込んでも安全な成分を使用しているの、残念ながら着色除去効果は低いようです。

着色物質が歯の表面に結合し、変色してはがれにくくなった場合は、歯科医院での研磨効果のあるペーストを使用したプロフェッショナルな除去（クリーニング）が必要です。

歯科衛生士 渡辺



「口臭について」

口臭ケアの商品は以前からありますが、最近では口腔に対する意識の向上から種類も増えてきています。口臭の原因は色々あり個々によりいくつかの原因が合わさって「その人の口臭」が発生します。自分の口臭の原因を知り、原因に対応したケアを選ぶことが大切です。

《口臭の原因》

八〇%は細菌が原因と言われています。歯垢や歯周病菌、虫歯菌、舌苔等が臭気物質を作り出すので、適切なブラッシングや治療による細菌の除去が重要です。又、口

腔内が乾燥することで細菌が増殖しやすくなったり、自浄作用が低下する為に口臭はきつくなります。口腔の乾燥には、口呼吸や早食い、飲酒による脱水、ストレス等が影響します。

それ以外では、病気によるもの、食べ物によるものがあります。食べ物（ニンニク、ニラ、ネギ、納豆など）の場合、一度は体内に吸収された臭気物質が血流に乗って肺から吐き出され、口臭になったり、皮膚から蒸気となって体臭になるので、食後3時間経過した頃が臭いのピークになります。（アルコールやタバコも同じ）

《口臭予防・対策》

一番大切なのは、歯ブラシ・歯間ブラシ等を用い、的確に歯垢を除去する事です。その上で、より効果を高める為に補助的にケア用品を上手く併用してみ下さい。

- 薬用マウスウォッシュ・・・強い殺菌作用を持つ。
- マウスウォッシュ
 - ・ 洗口剤・・・雑菌や食べカスを除去。清潔にするが、消臭は弱い。
 - ・ マスキング剤・・・強い香りで消臭。
 - ・ うがい薬・・・のどの殺菌消毒に使われるが、口臭除去効果もある。
- 口臭除去剤・・・雑菌の繁殖を防ぐ。
- 歯磨材
 - ・ 食塩入り・・・殺菌と引締め、腫れ出血予防
 - ・ 歯周病用・・・歯垢除去、マッサージ効果。
 - ・ 虫歯予防用・・・虫歯予防、歯垢・歯石沈着予防
 - ・ 悪臭を和らげる物質

《口臭のチェック》

口臭は他人へ指摘しづらいものですが、自分でも気がつきにくいものです。自分の口臭を客観的にチェックする習慣をつけましょう。

- 歯ブラシ・フロスによるチェック
 - ・ 歯磨材を使わずに清掃を行い、においを嗅ぐ。悪臭を強く感じるようだと口臭がある。
 - 歯垢染め出し剤によるチェック
 - ・ 口臭は歯垢により発生する事が多い為、残量をチェックし除去できているか確認する。
 - 舌苔のチェック
 - ・ 舌の色を見る。布などで舌をふき取り、においをチェックする。
 - コップによるチェック
 - ・ コップに自分の息を吹き込み、そのにおいをチェックする。
- 以上のチェックで口臭を感じる場合は、大体がプラークが原因となっているので、しっかりとブラッシングを行いましょ。

歯科衛生士 奥山

私たちは、通常時の勤務とは別に自主的に課題を決め、勉強した内容を毎月発表し合っています。

私の趣味



私の趣味はバスケットボールです。日本ではまだまだマイナーな競技ですが、最近では世界選手権が日本で開催されたり、多数のプロリーグが発足したりと、盛んなスポーツです。

私は藤崎歯科医院に就職して5年になる歯科医師です。バスケットボールとの出会いは、中学生になります。きっかけは、クラスメイトに誘われて何気なく始めた部活動でした。気づけばもう20年以上も続けています。



そして、今もバスケットボールは大好きで続けています。自分でプレーするだけでなく、プロの試合を観たり、時間のある時は日本代表の試合を観戦に行ったりもします。

現在は3つのチームに所属しています。簡単にチームの紹介をしたいと思います。

1つめのチームは板橋区のチームです。このチームは板橋区に住んでいる人たちで集まったチームです。週に2回、仕事の後に練習をしています。バスケットの他に、BBQや花見、忘年会を行ったり、プライベートでも仲良くしています。大阪から出てきた私にこのチームの人たちが、色々紹介してくれました。様々な職業の人たちの話が聞けるのも楽しみの一つです。

2つめのチームは経験者の多いチームです。全国大会に出場経験のある人もたくさんいます。現在も実業団に所属している人たちと一緒にプレーしています。バスケットに対する取り組み方や、考え方はプロフェッショナルで、とても良い刺激になります。同世代の人が真剣に勝負している姿は憧れます。

3つめのチームは歯科大学時代から続けている歯科医師のチームです。2つの歯科大学のOBチームから構成されています。2、3ヶ月に一度集まっては試合をしたりして汗を流しています。同じ職業の集まりなので、バスケットよりはそれぞれの仕事の相談や情報交換の場になっています。

医療は日々進歩しています。文献を聞いたり、講習会に参加して勉強を欠かすことはできません。

信頼して通院してくださる患者様に対し、責任ある治療を提供していく上で、バスケットは良いリフレッシュになっていきます。これからも趣味としてうまく付き合っていきたいです。

歯科医師K



毎年、夏になると、友人とその家族たちと一緒に、埼玉県のアウドアセンター長瀬に、バーベキューをしに出かけます。そこには、バーベキュー以外にもいろいろな施設があります。

たとえば、カヤックの講習を受けることができたり、ラフティング、リバープギ、キャニオニングなどがあります。

僕がおすすすめしたのは、カヤックです。フリースタイル世界選手権にも出場経験がある、ベテランのインストラクターがいるので、初心者の方でも大丈夫ですよ。そして、ラフティングです。六人前後でゴムボートに乗り込んで、激流の中、水しぶきを上げながら、友人たちと力を合わせて漕ぎ下ります。しかも、途中で天然記念物の



の岩畳を横目にしながら下っていく、景色は最高です。そして、ゴールしたときには、ちよっとだけ、友人たちとの絆が深まった気がします。ぜひ、家族や友人たちと、力を合わせて漕ぎ、絆を深めて下さい。

この二つをした後は、バーベキューですね。今年は、ダッチオーブンとジンギスカンリッドを購入して、揚げる、焼く、蒸す、煮る、炊く、薫製など、料理の幅を広げようと思っています。

ここでママ知識を一つ。鍋などを購入したら、まず最初にシーズニングという作業をして下さい。鉄製品には錆止めが塗られているので、これを、中性洗剤を使って落とし、次に、錆止め代わりにサラダ油などを塗り込んで下さい。あと、忘れちゃならないのは、保険証と救急箱です。何かあるかわからないので！

もちろん、手ぶらで行っても大丈夫ですよ。バーベキューパックやラフティングとバーベキューのセットもあり、初めての人でも安心して行けます。家族で行くもよし、気の合う仲間たちと行くもよし、今年の夏の思い出にいかがですか？おすすすめします。

歯科技工士M

意見箱

患者様からのご意見の回答を、待合室に掲示してあります。今回は、その中の一部をご紹介します。



《会計の待ち時間が長い》

診療が終わりますと、担当医がパソコンに、診療内容・処置内容・指導内容・今回の診療内容を入力して、指導文書・技工指示書などを作成します。その後受付で、カルテ・処方箋などを出力し、次回の予約を確認してからお会計をします。このような一連の作業で少しお待ちいただいておりますが、平成18年10月より費用をかけて会計システムを変更しました。それにより以前に比べ、お待ちいただく時間が短くなったと思います。

上記の事以外でも色々改革はしていますが、不手際がないとは言えませんので、長くお待ちの方は、受付にお声をかけて下さい。また、カルテの提出状況によっては、お会計の順番が前後する事がありますので、ご了承下さい。

《予約が取りにくい》

治療は、計画に沿って時間をとっておりますが、患者様によっては、治療時間を長く取りたい、又は、短くしたい、通院回数を少なくしたい、などのご希望があると思います。

治療方針・内容によって、治療時間を長めにとることや、通院の回数を減らすことなども可能ですので、担当医にご相談下さい。

《忙しそうで、質問しづらい》

毎回、治療後に気になったところはないか、治療内容についてのご質問がないかなど、伺うようにしております。何かございましたら、遠慮なくお声をかけて下さい。

《予約なのに時間通りに呼ばれない》

治療は予約制で行っており、予約の患者様を優先させていただいておりますが、前の患者様の治療状況や、急な患者様の来院などにより、予約時間になってもお呼びできない場合がございます。その場合、患者様には声をおかけするようにしております。長くお待ちの方は、受付にお声をかけて下さい。

《ひざにかけているタオルやエプロンが汚れているのでは》

ひざにかけるタオルやエプロンは、患者様の衣服を薬液から守るために使用しています。毎日洗濯をして、こまめに交換しております。ご了承いただけますようお願いいたします。エプロンは、使い捨てのものを扱うようにいたしました。

《入れ歯のバネの色がきになる》

保険治療ではありませんが、歯の色に合わせて、目立たなくした白色のバネがあります。金属のバネよりも多少厚みがありますが、お口の中に入れた感じはほとんど変わらない程度だと思われまます。また、お口の中の状態によっては、バネを使用しない入れ歯を入れることも出来ます。

できる限りご返答をさせていただき、改善させていただきますので、ご意見等ございましたら、意見箱をご利用下さい。

「あとがき」

今後の歯科業界において問題になりつつあるのが、歯科技士問題です。

歯科技士とは国家資格を要し、歯科医に依頼されて歯の詰め物や、かぶせ物、入れ歯を作るひとたちで、熟練と技術と知識を必要とします。一人前になるのも何年もの時間を必要とします。そういった中、技工料（技術料）のダンピング競争、海外受注（中国など）などで、数多く作らないとならなくなつた為、労働条件、環境の悪化、長時間労働（12時間労働は当たり前で、18時間労働なんてときもある）などがおこっています。

それによって、新卒の離職率は1年で1割を越え、7年後には7割を超えるといわれています。専門学校では募集定員割れも起こっています。



この様な状況が続くと、日本に歯科技士がいなくなってしまう。

現在ならまだ、熟練技士が数多く存在するので、今のように何らかの手を打って、技術知識を伝承して行く必要があります。

患者様のお口の中に入るものとして、安全で、安心できるものを提供して行く為に、ふじさき歯科として何が出来るかを、真剣に考えていきます。

患者様の皆様にも、このような問題が起こりつつあるということ、御承知いただければ幸いです。



藤崎歯科医院の

『個人情報保護法』へ

の対応について

当医院は受診される皆様の個人情報の収集及び管理をさせて頂いております。

歯科医院における個人情報とは、受診される方の氏名、住所、生年月日、電話番号、職業、健康保健情報、問診表、診療録、診療内容、エックス線写真などがあります。そのような個人情報を守り、安心して治療が受けられるよう努めます。

患者様とのコミュニケーションとして毎年、年賀状・デントルニュースを発送しておりますが、希望されない場合は情報を削除いたしますので受付までご連絡下さい。

2007年発行

ふじさき歯科

診療時間 午前10：00～午後7：00（受付6：30まで）
休診日 日曜・祝日

〒175-0082 東京都板橋区高島平 8-5-6 オフィス 805 2F

TEL 03(3935)6471 FAX 03(3935)6606

<http://www.fujisaki-dent.jp>